



週報 第3号

二本松
あだたらロータリークラブ



ロータリー：
変化をもたらす

通算 / 第1142回 平成29年7月27日 会場 / 二本松商工会議所

2017-2018年度 国際ロータリーのテーマ

会長 佐藤壮一郎 副会長 平塚與志一 クラブ会報 穴戸 光英
会長エレクト 渡辺 正弘 幹事 安部 敏弘

会長あいさつ

会長 佐藤 壮一郎



『不安な国家たちすくむ個人』前回に続き、今回は政府は個人の人生の選択を支えられているか？

個人の選択をゆがめているわが国の社会システム

- ① 居場所のない定年後
- ② 臨んだものと違う人生の終末
- ③ 母子家庭の貧困
- ④ 非正規雇用・教育格差と貧困の連鎖
- ⑤ 活躍の場がない若者

についてお話しします。

例えば、①定年後、まだまだ働きたいのに、働く場所がない②人生の終末期に過ごす場所を、望み通り選べない…手厚い年金や医療も、必ずしも高齢者を幸せにしている一方で、③母子家庭になると、半数以上は貧困に④一度、非正規になると貧困から抜け出せず、子どもまでも…社会のひずみの縮図のような弱者が生まれている。また、⑤若者の社会貢献意識は高いのに、活躍できていない。こんなもったいない状況を放置していいはずがない。

多くの人が健康で長生きする現代。にもかかわらず、60歳半ばで社会とのつながりが急速に失われる暮らし。そんな暮らしを多くの人が望んでいるだろうか？

健康で長生きしたあとで人生最後の一ヶ月に、莫大な費用をかけてありとあらゆる延命治療が行われる現在。どんな人生の最期を迎えたいですか？「終末期の自分」を、選択できていますか？

意欲、健康、経済状況など高齢者が置かれた状況は様々。にもかかわらず、現在の社会システムは、ある年齢で区切って一律に「高齢者＝弱者」として扱い、個人に十分な選択の機会が与えられていない。高齢化が進む中、こうした考え方のまま際限なく医療・介護・年金等にどんどん富をつぎ込むことに、日本の社会はいつまで耐えられるのだろうか。

人類がこれまで経験したことのない変化に直面し、個人の生き方や価値観も急速に変化しつつあるにもかかわらず、日本の社会システムはちっとも変化できていない。このことが人々の焦り、いら立ち、不安に拍車をかけているのではないかと。なぜ日本は、大きな発想の転換や思い切った選択ができないままなのだろうか。

今の社会システムは、高度経済成長まっただ中の1960年代の日本社会を前提につくられたもの。それが定着した世代の人生と、現役世代の人生とを比較すると、○「結婚して、出産して、添い遂げる」という生き方をする人…1950年代生まれ：81%、1980年代生まれ：58%。○「正社員になり定年まで勤めあげる」という生き方をする人…1950年代生まれ：34%、1980年代生まれ：27%、「サラリーマンと専業主婦で定年後は年金暮らし」という「昭和の人生すごろく」のコンプリート率は、既に大幅に下がっている。

今後は、人生100年、二毛作三毛作が当たり前。にも関わらず、「昭和の標準モデル」を前提に作られた制度と、それを当然と思いがちな価値観が絡み合い、変革が進まない。これが、多様な生き方をしようとする個人の選択を歪めているのではないかと。

その一方で、子ども・若者の貧困を食い止め、連鎖を防ぐための政府の努力は十分か。母子家庭の貧困、子どもの貧困を、どこかで「自己責任」と断じていないか。若者に十分な活躍の場を与えられているだろうか。

高齢者は一律に弱者として手厚く保護する一方、「子育ては親の責任」、「現役世代は自己責任」と突き放し、意欲のある若者にも高齢者にも活躍の場を提供できていない日本。「未来の日本の豊かさを支える子供たちだけは、社会全体で投資し、何としても支える。」「年齢にかかわらず、それぞれのやり方で社会に貢献する。」と胸を張って言う方が、将来に対する希望が持てるのではないかと。



委嘱状 渡辺章会員
ロータリー財団委員会
学友・平和フェロシップ委員会委員
に委嘱を交付

本日のプログラム

7・8月のプログラム

- 第1142回例会：7月27日(木) / クラブ協議会
- 第1143回例会：8月3日(木) / 会員スピーチ
- 第1144回例会：8月10日(木) / ガバナー補佐訪問
8月17日(木) / 休会
- 第1145回例会：8月24日(木) / 夜間移動例会(納涼会)
- 第1146回例会：8月31日(木) / 会員スピーチ

クラブ協議会

幹事報告

会員の皆様へ

8月のプログラムの出欠は必ず
返信願います。

●国際ロータリークラブ会長
イアンH・S ライズリ

●国際ロータリー 2530 地区ガバナー
鈴木 邦典 (白河RC)

●県北第一分区ガバナー補佐
渡辺 浩子 (福島 21)

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 一、真実かどうか
- 二、みんなに公平か
- 三、好意と友情を深めるか
- 四、みんなの為になるかどうか

創 立 1993.6.30
 承 認 1993.9.10
 認証状伝達式 1993.11.8
 地区番号 2530
 クラブ番号 29750
 例会日 毎週木曜日(12:30~13:30)

例 会 場 二本松商工会議所
 事 務 局 〒964-8577
 福島県二本松市本町 1-60-1
 二本松商工会議所
 Tel0243-23-3211
 Fax0243-23-6677

クラブ協議会

◆S・A・A(会場監督)委員長 菅野 守 芳

楽しく明るい例会となるよう、会場監督に努めます。

1. 万全な準備、点検に心かける。
2. 役割を分担し、任務を全うする。
3. 会員総合の信頼と友情を深める例会につとめる。
4. 私語を慎み、時間の配分等も注意する。

◆戦略計画委員会 委員長 柳 沼 英 雄

計画目標

戦略計画委員会の目的は、クラブ委員会の活性化を語ることにあり、クラブを行動力のある生き活きとした元気なクラブにすることにあります。

活動計画

「RI 会長賞の受賞を目指す」本年度も地区の目標である「会長賞」に挑戦することになりました。

各委員会、委員長は、委員会を開催して項目の選定をし、実践計画を立案する。立案した実践計画を、より具体的に取り組むことが重要である。本年はなお一層充実 RC にして参りたいと考えております。全会員のご協力をお願いします。

◆クラブ管理運営委員会 委員長 齋 藤 敏 夫

クラブ管理運営委員会はプログラム委員会、出席委員会、親睦活動家族委員会、ニコニコボックス委員会の五つの委員会の運営の管理及び助言等いたし、各委員会のスムーズな運営を図るものです。

私がプログラム委員会の委員長も兼務していることから年間のスケジュールを基に、例会への出席率向上と親睦活動の積極参加を呼びかけてまいります。そのことによりニコニコボックスの目標も達成されるようにしていきたいと思っております。

各委員会の皆様よろしく申し上げます。

◆会員増強委員会 委員長 善 方 邦 雄

本委員会は、会員増強のための行動計画を立てこれを実施することにある。

クラブとして、最も効果的な活動を維持していくためにも、職業分類に沿った会員の増強は不可欠であり、会員維持も重要であることから会員の誘惑と退会防止にむけ、会員の満足度を高めていきます。

◆広報委員会 委員長 秋 山 和 久 公共イメージの向上

23年間続けてきたインドネシアの子供たちへ育英基金欠かさず行ってきました。

当ロータリークラブとして子供達からの感謝の手紙や写真を「ロータリーの友に掲載する。」また毎年行っている霞ヶ城の浄化風景の地元新聞等もロータリーの友に掲載する。

◆奉仕プロジェクト委員会 委員長 松 坂 豪 智 JICA 訓練所(訓練生、職員、講師)との交流会の実施

年4回の訓練の外泊日程に合わせ、RC会員との交流会を通し、互い能力を共有し任地での活躍を間接的に応援する。

◆ロータリー財団委員会 委員長 根 本 和 行

ロータリー財団委員会は、ロータリーにとって大きな役割を担っていると同時に活動も大変期待されています。本年度もRI方針及び地区、目標と佐藤壮一郎会長の目標を尊重し二本松あだたらRCの充実した有意義な1年間となるように、皆様のご協力を得ながら積極的に推進して参ります。

ニコニコ BOX

にこにこ BOX 委員長 菊地 久子

会長：佐藤壮一郎、幹事：安部敏弘、秋山和久会員、善方邦雄会員、石澤 崇会員
菅野守芳会員、渡辺 章会員、橋本哲弥会員、

財団寄付者…菊地久子会員、柳沼英雄会員、渡辺 章会員

*ご協力頂き有り難うございました。

出席委員会 委員長 金田 君子

会員数	本日出席	出席率	メイクアップ	修正率
32名	21名	66%	11名	100%

ニコニコ BOX

目標額	500,000円
小計	11,000円
累計	62,000円